

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

福島大学全学教務協議会データサイエンス教育部会

(責任者名) 高森智嗣

(役職名) 准教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度のプログラムの履修状況は、食農学類22名であった。その内、単位修得者は、食農学類22名であった。
学修成果	学修成果は、授業ごとに出题される「確認テスト」の点数の合算によって確認する。 令和6年度は、受講した学生22名の内22名(100.0%)が単位取得に至っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートでは、「理解できた」が38.8%、「ある程度理解できた」が49.6%と、肯定的な回答は合わせて88.4%と高い割合になっている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業評価アンケートにおける総合満足度の結果は、「満足した」が45.3%、「ある程度満足した」が47.5%と、肯定的な回答は92.8%となっており、後輩等他の学生への推奨度は高いと推察される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学教務協議会データサイエンス教育部会において、プログラムの改善等について検討している。同部会の活動を軸に履修者数等を注視しつつ、授業担当教員と連携して、令和7年度以降の履修率向上に向けた検討を行っていく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	申請段階では、教育プログラム修了者が卒業していないため、現時点では修了者の進路などの評価ができないが、今後就職先などへの調査を通じて、活躍状況、企業等の評価を行うこととしている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	学外者（県教員、民間企業、NPO法人）で構成される組織である「アドバイザーボード」が教育推進機構内に設置されている。 年2回開催される「アドバイザーボード」から意見をもらっており、それらの意見を担当教員間で共有している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	社会におけるデータサイエンスの身近な事例や各学類からの幅広い分野での応用などを紹介することで、さらに「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解できる学習プログラムとしていく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	各回の講義でのフィードバックおよび授業アンケートを参考に、内容・水準を維持・向上しつつ、学生にわかりやすい授業内容の開発・改善を行っていく。